

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

一般社団法人 日本保育者未来通信

②施設・事業所情報

名称：やべのファミリールーム	種別：認可保育所
代表者氏名：理事長 稲葉 佳久	定員（利用人数）： 57（58）名
所在地：横浜市磯子区洋光台3丁目28-27	
TEL：045-350-6391	ホームページ： https://family-room.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2015年06月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：特定非営利活動法人ファミリールーム	
職員数	常勤職員： 20名 非常勤職員 7名
専門職員	施設長 1名 保育士 17名
	看護師 1名 栄養士 3名
	調理員 2名 保育補助 1名
	事務員 1名 英語講師 1名
施設・設備 の概要	乳児室 1室 保育室 1室
	調理室 1室 幼児用トイレ 2個
	医務室・事務室 1室 ロッカー室 1室
	倉庫 1室 障がい者トイレ 1室
	エレベーター 1機 屋外遊技場 80.65㎡

③理念・基本方針

<p>【保育理念】</p> <ul style="list-style-type: none">・児童福祉法に基づき、子どもにとって最もふさわしい生活の場を保障し、愛護すると共に最善の利益を守り、健全な心身の発達を図る。・子どもを育てる喜びを保護者とともに共有しつつ、地域に開かれた育児文化の拠点としての役割を果たしていく。・保育士の専門的知識、技術、判断をもって対応し、子どもを保育する。 <p>【保育方針】</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの主体的な発達要求・意欲を発揮させるよう支援する。・保育者が専門性を高めながら保育の内容の質を充実させる。 <p>【保育目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・心身ともに強く豊かな子ども・たくましい身体づくり・思いやりのある子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>【職員心得を作成し、さらなる質の高い保育の実現に向けて具体的な取り組みが行われています】</p> <p>職員心得の冒頭には、保育理念・保育方針・保育目標が記載され、理念・目標・方針をしっかりと理解し、保育にあたることが述べられています。心得では個人情報の遵守、人権、子どもの接し方の配慮、言葉遣い、職員のコミュニケーション、職員会議</p>

の項目が設けられています。さらに、人権の項目には、人権を配慮した保育、子どもの人権を守るために、子どもへの接し方、子どもへの対応、ことばがけ等の項目が設けられ、日々の保育内容に直結した具体的な配慮事項が記載されています。また、子どもの接し方の配慮の項目には、手の引き方、おんぶの仕方、虐待について等の項目が設けられ、具体的な保育実践の内容について留意事項が示されています。

職員心得は入職時に読み合わせを行うとともに、必要に応じて月1回実視される職員会議で再確認しています。また、月1回実視される、リーダー会議、クラス会議等において、指導計画の振り返りをする際や、保育の状況や改善点について検討する際に必要に応じて見直すなど、質の高い保育の実現に向けての具体的な指針となっています。今後、現在の職員心得に記載のある具体的な保育内容等について、保育業務マニュアルとして整備する計画が立てられ、さらなる質の高い保育の実現に向けた取り組みが予定されています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和6年 2月 29日（契約日）～ 令和6年 11月 28日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2019年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

【理念を踏まえ、さらなる安心・安全な保育の実現に向けて組織的な取り組みが行われています】

園の保育理念は、「児童福祉法に基づき、子どもにとって最もふさわしい生活の場を保障し、愛護すると共に最善の利益を守り、健全な心身の発達を図る」です。園では理念の実現に向けて、さまざまな取り組みが実践されています。

その中でも、「安心・安全に生活できる場の保障」に向けて、具体的な取り組みが行われています。園では、以前から怪我が起こりそうな場面や怪我が起きた際に、ヒヤリ・ハット・事故報告書を記入して報告していましたが、怪我の事例の収集を積極的に行うため、ケガの報告書を新たに導入しました。ケガの報告書は、場所、ケガの種類、処置等について、選択肢から選び記録しやすくするとともに、状況について記載する書式となっています。また、人のイラストが描かれ、ケガをした部分に印をつけることで、視覚的にケガをした場所を分かりやすく確認できるようになっています。導入後、職員の意識の向上や報告書の書きやすさも踏まえ、事例が多く報告されるようになりました。報告内容については、5月から8月に実施された職員会議時に、日ごろの保育で提出されている、ケガの報告書、ヒヤリ・ハット事故報告書等の内容について共有し、事故・ケガ・ヒヤリ・ハットの内容について、曜日、対象園児、場所、症状、状況別に一覧にしてまとめ、数値をグラフ化し検討しました。グラフではケガの発生場所、発生曜日、発生回数、発生時間帯を棒グラフにすることで、視覚的にいつ、どこで、どのような時間帯にケガが起こりやすいかが分かりやすく示されています。これらの検討内容を踏まえ、具体的な改善策につなげるとともに、怪我等の具体的な対策に取り組むための中心になる係として、新たにリスクマネジメント委員会を設置しました。

これらの取り組みにより、職員の意識の向上及びリスクマネジメント力の向上につながり、未然にケガを防ぐことや、安心・安全な保育環境を整備するなど、理念を踏まえ、さらなる安心・安全な保育の実現に向けて組織的な取り組みが行われています。

【保育所の資源を利用した、地域との定期的な交流の機会が望めます】

園の中長期計画には5つの重点項目が設けられ、その一つに地域における公益的な

取り組みが掲げられています。具体的な内容として、「地域子育て支援活動等を通して地域との連携、交流を進んで行う」、「地域の実情や必要性をさぐり、地域の中の施設を目指すための取り組みに当たる」、「実習生を受け入れられるように体制を整備する」ことなどが述べられています。

現在、園では、地域の福祉向上のための取り組みとして、地域行事であるキャンドルナイトの開催場所として施設を提供するなどの取り組みが行われています。今後は、経験年数が長く、保育経験が豊かな職員が多く在籍する当園の強みを生かし、地域に向けた保育体験や給食体験などの子育て支援や近隣の高齢者施設等との交流、また実習生の受け入れの実施など、さらなる地域への貢献と交流が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

日頃から創意工夫し協力して保育にあたっているところですが、事業者自己評価を受けたことで、保育の内容や園の運営に関して、客観的に見直すよい機会となりました。

よい評価をいただけたところは自信になり、このまますすめていけば良いと職員一同勇気づけられました。少し足りていないところは、課題として見える化できたことが大きな収穫でした。

また、訪問調査では、保護者向けの掲示の仕方についてなど具体的なアドバイスもいただくことができました。

丁寧な評価をしていただきありがとうございました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり